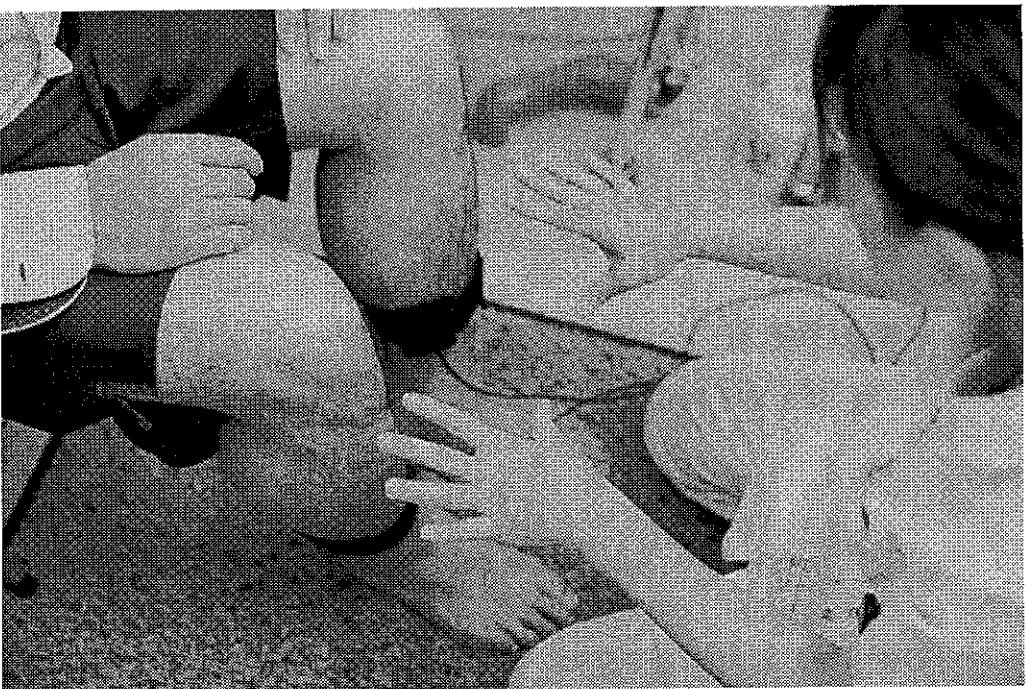
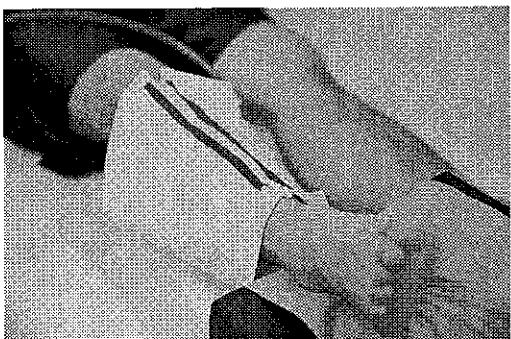


下肢静脉瘤



上 下肢静脈瘤の診察風景ーまつもとディクリニック提供



軽症の方であれば、「弹性ストッキング」という静脈の還流をよくする専門のストッキングを履いていただき、症状を和らげる治療が行われます。やや進行した有症状の方の場合は、根本的な治療として「血管内レーザー治療」などの血管内治療の適応となります。

2011年に保険適用となった「血管内レーザー治療」は血管内に挿入した細いレーザーファイバーでレーザー照射することで血液を固めて靜脈を塞ぎます。止足20~30分と治療時間も短く、エコーを使う特殊な局所麻酔法（TLLA麻酔法）を主体

では鎮静鎮痺を併用することで眠っている間に治療を終えることができます。この治療法は従来の手術に比べ、術中の出血や術後の痛みが少ない利点があります。

14年に保険適用となった「高周波カテーテル治療」という細長いコイルで靜脈壁を温めて閉塞に導くものもあります。最近では、スリムファイバーも開発され、手術時間は短く、穿刺孔も極小となり、さらなる低侵襲化が進んできています。これらの血管内治療は、術後すぐに歩行可能で、基本的には入院は不要であるため、ほぼ全国的に日帰り治療として行われています。

どんな病気？どう治療？

足のむくみやだるさが生じる下肢静脈瘤^{ゼンブツヌカ}。立ったままの仕事や加齢から足に血液がたまることで生じる、身近な病気だ。ほとんど切開を伴わない「血管内レーザー治療」や「高周波カテーテル治療」という治療が保険適用になり、標準的な治療になっている。下肢静脈瘤の症状や治療法について、医療法人静かな源脈の会「まつむじディクリニック」（高知市）の松本康久院長（血管外科）に聞いた。

池田知隆

むくみやだるさ 重症化も

——下肢静脈瘤はどのよのな
病気ですか？

下肢静脈瘤は足の血管の病気です。下肢とは足のことです。静脈瘤は血管(静脈)がコロ(瘤)のよのよのんだ状態のことを行います。良性の病気です。

在型「側枝型」「網目状」のものの中の4種類に分類されます。一般的に症状があり、手術が必要となるのは伏在型と一部の側枝型静脈瘤だけで、それ以外はあまり心配ありません。

——発症するとどうなりますか？

最初は無症状ですが、進行していくにつれて血液がたまるごとに、よってさまざまな症状を感じるようになります。症状は午後から夕方に強くなるのが特徴で、命にかかる病気ではありませんが、放置しておいて自然と改善するわけではなく、時間の経過とともに徐々に悪化します。重症化すると通常の「滯性皮膚炎」を合併するのですが、わりに悪化する「色素沈着」「皮膚硬化」や皮膚が欠損し、「皮膚潰瘍」になる場合があります。このような皮膚病を合併した場合、回復が長引き、皮膚病の跡

て氣は悪化するなど命の危険は
ありませんが、足のだるさやむ
くみなどの症状が慢性病になら
り、生活の質(QOL)を低下
させます。まれに湿疹などがで
き、最悪の場合、皮膚潰瘍まで
至る重症になります。このうつ病

手術

——症状は？

40歳以上の女性に多く、年齢とともに増加し、患者数は100万人以上と推定されます。遺伝性があり、両親とも下肢静脈瘤の場合、将来的にはその子供もなりやすいといつデータもあります。妊娠時には、お腹の赤ちゃんとによる靜脈の圧迫やホルモンの影響による靜脈の弁が壊れやすくなるため発症しやすくなります。

日帰り手術 入院不要

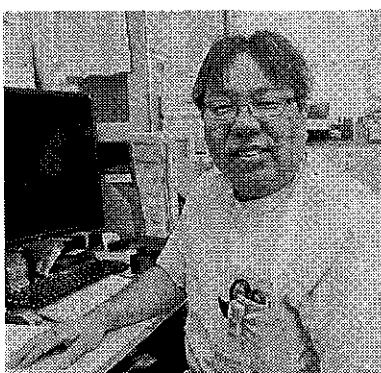
じるようになります。そうなれば手術による治療が必要となります。

大伏在静脈瘤は最も多いタイプで、足のつけ根の静脈弁が壊れて、膝の内側に静脈瘤が出現します。小伏在静脈瘤は比較的小なく、膝の後ろ側の静脈弁が壊れて、ふくらはぎに静脈瘤が出現します。

—患者さんの特徴は？

立ち仕事、特に1ヵ所に立つてあまり動かない仕事（調理師、美容師、販売員など）で発症しやすく、特に1日10時間以上立っている人は重症化しやすい傾

高知・まつもとデイクリニッケ 松本康久院長に聞く



まつもと・やすひさ 1966年生
まれ。宮崎県出身。高知大学医学部卒。日本外科学会認定外科専門医。高知大学医学部付属病院「下肢静脈疾患／リンパ浮腫専門外来」で研さんを積み重ねてきた経験を生かして開業。四国・高知で初の「下肢静脈瘤（足の靜脈瘤）およびリンパ浮腫」の専門クリニックとして診療を行っている。